

## 「都幾川の三日月湖(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

「三日月湖」というのは、蛇行した川の流れが、氾濫その他で変化し、もとの流路(蛇行部)が、独立して残ったものである。「河跡湖」とも呼ばれる。平野部や盆地では、どこの川でも見られるはずであるが、古くから開発され、都市化が進んだ日本の河川では、あまり多くは見られない。

日本では、石狩川の三日月湖が有名である。(実は半数以上は、人工的な流路変更で生まれた三日月湖である)。関東地方には非常に稀だが、全くないわけではない。地形図を詳細に見ると、いくつか見つけることができる。その一つが、埼玉県都幾川の三日月湖だ。



「都幾川(ときがわ)は、「荒川」の支流の「入間川」の支流の「越辺川(おっぺがわ)」のそのまた支流の川である。名の通り「ときがわ町」を源流とする。

三日月湖が存在する場所は、東松山市街地の南側、東上線と関越自動車道に挟まれた、都幾川の河川敷のような土地である。地形図で見ても、これは明らかに河跡湖である。よく見ると、現在でも都幾川本流と、細い水路で結ばれているようだ。

北には東松山の市街地、南には高坂駅周辺の市街地が迫っている。こんな街に近い場所に、天然の三日月湖が何百年も残っているわけではないので、恐らく都幾川を人工的に流路変更して残ったものだろう。



航空写真でも確かめてみた。確かに三日月湖のようである。都幾川本流との細い水路も、かすかに確認できる。三日月湖に囲まれた土地は、畑か水田として利用されているようだ。



この三日月湖に正式名称はないが、釣をする人の間では有名なようで「三日月沼」と呼ばれている。いよいよ「三日月」である。「三日月沼」は東上線車窓からも見える。下り列車が高坂駅を出て、都幾川橋梁を渡る手前の左側である。ゆるやかにカーブを描く土手が三日月沼の縁だ。しかし、電車からでは湖面はよく見えない。これはもう、現地調査しかないだろう。